

休眠打破

今が1年間で1番寒い時期です。暦の上では「大寒」といいます。今年は1月20日から2月3日までが「大寒」だそうです。2月3日は「節分」。節分には誰もが知っている行事（豆まき）がありますから、皆さんにとっても身近な日だと思います。漢字を見てみましょう。「節」を「分ける」ですね。「節」を季節と考えれば、どの季節とどの季節を分ける日なのか。簡単です。冬と春です。暦上の春の初日である2月4日は春が立つ、と書いて「立春」です。体感的にはまだまだ寒く、春という感じはしませんが、「1年で1番寒い時期がやっと終わりました。これからは少しずつ暖かくなりますよ。」と宣言するような日なのだと思います。

実際に校庭を歩いてみると、春に向かう兆しを感じるがあります。その一つが桜です。桜の枝には蕾がしっかりとついていました。あとは、暖かくなるのを待つだけの準備万全の様相です。今年の桜前線、開花予想が発表されています。熊谷は3月20日でした。ところでなぜ、開花予想ができるのでしょうか。目安は何なのでしょう。

それは「積算温度」です。1日1日の気温をどんどん足していって、ある数字を超えると桜の花が咲き始めるのだそうです。調べてみると「400度の法則」あるいは「600度の法則」という目安があるということに行きつきました。「400度の法則」は、2月1日からの日々の平均気温を足していって、400度を超えると花が咲くという目安です。「600度の法則」とは、同じく2月1日からの日々の最高気温を足していき、600度を超えると花が咲くという目安になります。

そうすると、冬も暖かければ暖かいほど、桜は早く咲くと考えがちですが、実はそうではありません。桜は夏の段階で、花の芽のもとをつくります。そして秋になり、葉っぱが落ちるころには眠りに入るのだそうです。これを「休眠」といいます。桜の芽を眠りから覚ますのは、春の暖かさではありません。目を覚まさせるのは、冬の厳しい寒さなのです。厳しい寒さで眠りから覚めることを「休眠打破」といいます。寒さで眠りから覚めた芽は、春の暖かさでどんどんと生長をしていきます。

どうもこれは、人間の成長と相通じるものがあります。2, 3年生の皆さんは、1年前の全校朝会で「麦踏み」の話をしたことを覚えているのでしょうか。麦の芽が出たときに、その芽をローラーなどで踏むこと（昔は足で踏みつけていたそうです）で、麦は強く育ち、実を実らすというお話です。このお話とも共通する部分がありますね。

「休眠打破」のような厳しくつらい経験も、「積算温度」のようなコツコツと積み重ねる努力も、人間の成長には欠かせません。学習面でも部活動でも、その他さまざまな面で、春は皆さんの努力の成果があらわれます。春はもうすぐ。もうひと頑張りです。